特別国民体育大会ソフトテニス競技北海道ブロック予選会
兼
北海道体育大会（成年の部：ダブルス・シングルス）
開　催　要　項

1	日　　時	2023 年５月 27 日（土）・28（日）　受付終了８時 30 分　受付終了後開会式
2	会　　場	砂川市日の出テニスコート（砂川市東６条南１１丁目３－１）砂入り人工芝８面 ℡（0125）54-2175
3	主　　催	公益財団法人 日本スポーツ協会　　公益財団法人 北海道スポーツ協会
4	主　　管	北海道ソフトテニス連盟（強化委員会）
5	後　　援	スポーツ庁、北海道
6	種　　目	成年男子・成年女子　　ダブルス　５月２７日(土)　　シングルス　５月２８日(日)
7	大会使用球	アカエム
8	競 技 方 法	（１）別添『2023 年度国民体育大会道予選会実施要領』及び『国民体育大会北海道代表選考規程』に基づき実施する。 （２）７ゲームマッチ （３）ルール等は、公益財団法人日本ソフトテニス連盟（以下、日連という）ソフトテニスハンドブックによる。
9	参 加 資 格	（１）平成 17 年４月１日以前に生まれた者 （２）原則として、日本国籍を有する者 （３）居住地を示す現住所が北海道である者、又は勤務地が北海道である者、又は居住地、勤務地が道外であるが、ふるさと（卒業中学校又は卒業高校の所在地）が北海道である者＝「ふるさと選手制度」⇒要登録 （１度登録した「ふるさと」は変更不可） ※「ふるさと選手制度」を活用しての参加申込の場合は、各自の「ふるさと登録届」の添付がなければ受付できませんのでご注意ください。（詳細は、北海道ソフトテニス連盟事務局に問い合わせてください。）この制度を利用する場合は必ず登録状況を申込書に記入（〇印）願います。
10	申 込 期 限	2023 年４月２７日（木）
11	参　加　料	ダブルス １ペア　8,500 円(道連大会参加料 3,500 円＋日ス協負担金 5,000 円※下記参照) ※上記参加料には、１名あたりの日ス協参加者負担金 1,500 円及び日ス協傷害補償制度負担金 1,000 円の合計 2,500 円を含みます。（ペアで合計 5,000 円） シングルス １人 4,500 円(道連大会参加料 2,000 円＋日ス協負担金 2,500 円※下記参照) ※上記参加料には、１人あたりの日ス協参加者負担金 1,500 円及び日ス協傷害補償制度負担金 1,000 円の合計 2,500 円を含みます。 なお、本大会に参加する選手が、同大会ダブルス予選会にも参加している場合は、道連の大会参加料 2,000 円のみとなります。） ※シングルス予選会にも参加する場合は、シングルス予選参加時に日ス協参加負担金及び傷害補償制度負担金は不要となり、道連の大会参加料のみとなります。

12	申込方法	（１）日本連盟、会員登録新システム(イベント検索画面)より期限までに申し込み、選択した支払方法により期限までにお支払いください。 （２）北海道連盟未登録者(ふるさと選手制度利用者等)同士によるペアで、出場を希望するものについては、支部を経由せずに、下記へ直接申込みすること。 〒062-0905 札幌市豊平区豊平５条 11 丁目１番１号北海道立総合体育センター内 北海道ソフトテニス連盟事務局（申込期限厳守） ℡011-867-0162　Fax011-867-9518　メール　info@hokkaidosofttennis.com
13	参加選手及び来場者留意事項	（１）所定の時刻までに受付を完了し、開会式には必ず出席すること。 （２）日連指定のゼッケンを着用し、四隅を止めること。 （３）ラケット（公認マーク添付)、シューズ、ユニフォームは、日連が公認したメーカーの製品を使用（着用）し、当該年度の日連の「ユニフォーム等の着用基準」を遵守すること。また、本大会は同基準におけるウェアに関する特例を適用する。 （４）公認審判員ワッペン及びイエローカードを携行し、審判を担当するときは、原則ワッペンを左胸に着用すること。 （５）優勝者は必ず〔持ち回り優勝杯〕を持ち帰り、次年度の大会時に整備のうえ、責任を持って返還すること。 （６）試合動画及び入賞者の写真を北海道ソフトテニス連盟のホームページ、ＳＮＳ、ＹｏｕＴｕｂｅ及び広報誌に掲載させていただく場合があります。動画及び写真の掲載について不都合がある場合は、お手数ですが広報担当者まで個別にご連絡願います。 広報 IT 委員会　担当：多田　mail:s_tada@cameo.plala.or.jp （７）新型コロナウイルスの感染拡大等により入場制限等の対策を講じる場合がありますので、予めご了承ください。

この事業は、競輪の補助を受けて実施しています。

競輪の補助事業

2023 度　国民体育大会（鹿児島県開催）成年男女北海道予選会実施要領

北海道ソフトテニス連盟強化委員会

１．開催日時

種別・会場	試合	受付・開始時間
ダブルス （砂川市日の出テニスコート）	一次予選 最終予選	５月27日（土）午前８時３０分受付終了、９時試合開始
シングルス （砂川市日の出テニスコート）	一次予選 最終予選	５月28日（日）午前８時３０分受付終了、９時試合開始

２．選考方法

（１）ダブルス（初日）・シングルス（２日目）共通

①　１次予選

・　トーナメント戦又はリーグ戦により２～４ペアを選出する（選出数は指定シード選手の参加有無等を考慮して決定する）。

②　最終予選

・　１次予選通過ペアに「指定シードペア」を加えて、総当り最終リーグ戦（１回）を行い、トータルポイントで上位のペアから順に代表ペアとして内定する。

※　選手の疲労過多によるけが防止を念頭に、強化委員会において競技方法を決定する。

■注意事項

１．ダブルスで内定している選手がシングルスの予選会に出場することは可能である。シングルスで内定し、ダブルスを辞退する場合は、ダブルスのパートナーも内定が取り消されることになる。

２．ダブルスの「内定ペア」は、予選会の申込みは不要であるが、ダブルス及びシングルスの「指定シードペア又は選手」は、参加申込が必要である。なお、「内定ペア」及び「指定シードペア又は選手」は、１次予選から出場することも可能であるが、その場合は「内定ペア」及び「指定シードペア又は選手」の権利は消滅する。

３．ダブルス及びシングルスで内定となった選手が辞退をする場合は、それぞれの予選会で次点となったペア（ダブルスの場合）又は選手（シングルスの場合）を繰り上げて内定とする。

４．代表選手は、監督の指示により、ダブルス、シングルスのいずれかにも出場することに承諾しなければならない。

５．参加数及び当日の天候等、特別な事情が生じた場合、上記の試合方法を変更することがある。

「国民体育大会北海道代表選考規程」

１．少年男女、成年男女の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の承認を経て、理事会で審議・決定する。

２．代表選手の選考は、以下に示した基準（注①）に該当したペア（同一ペアに限る）を「国体代表内定ペア（１ペア）」とし、予選会を免除する。

　なお、対象が２ペア（ダブルス）以上となった場合は、国体代表選考委員会で協議した後、道連理事会で最終審議・決定を行う。※少年のシングルスについては、別に定める。

３．上記２以外の代表選手選考会は、「国体道予選会実施要領」に基づき、大会要項に定めるペア数（シングルスは選手）を選考する。

　なお、最終リーグの順位は「ソフトテニスハンドブック大会運営規則第３章競技大会第１０条」により決定する。

４．代表選手５名の他に補欠選手を各種目１名に限り置くことができるものとする。補欠選手の選考基準は、以下に示す注③の通りとし、強化委員会の承認を得て道連理事会で審議・決定する。

５．国体代表選考委員会は、上記により選出された選手のほか、強化委員会から推薦された監督・コーチ・補欠選手の選考について審議する。また、選手（補欠含む）及び監督・コーチに欠員が生じた場合には、速やかに強化委員会と協議し、補充の選考をしなければならない。

６．上記による選考結果は、国体道予選後の道連理事会で正式に発表する。

７．監督・コーチ・選手（補欠含む）は種目を問わずに一致団結し、常に北海道代表としての自覚と品位を保ち、競技力の向上に努めなければならない。

　なお、これらに反する行為があった者、または、そのような行為を看過した者は、国体代表選考委員会の審議により、北海道代表の資格を失うことがある。

８．国体代表選考委員会は、必要に応じて理事長が招集する。なお、委員は次のとおりとするが、審議の際には、会長（代理又は委任可）、副会長（２名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む２名以上）の出席を要す。

　※国体代表選考委員の該当者：会長、副会長、理事長、副理事

注①：少年男女における「国体代表内定ペア・選手」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○当年度全日本高校選手権　上位８ペア ○当年度ハイスクールジャパンカップ　上位２ペア	○当年度ハイスクールジャパンカップ （シングルス）　上位４名 ○全日本シングルス選手権　上位８名 ただし、ダブルスを優先として代表選手を決定するため、上記に該当する選手は、内定候補として、シングルス予選会を免除し、シングル予選会の１位以上の順位とする。

注①：成年男女における「国体代表内定ペア・選手」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○前年度東・西日本選手権（一般）　上位８ペア ○前年度全日本学生選手権　上位４ペア ○前年度全日本社会人選手権（一般）　上位８ペア ○前年度全日本選手権　上位16ペア	なし

注②：少年男女における「指定シードペア・選手（２次予選）」

ダブルス	シングルス
○代表候補選手　男女各16名 ※北海道高校新人戦、北海道高校インドア大会、北海道高校選手権等及び中学の各種大会結果も考慮し、高校部の推薦に基づき、強化委員会が最終的に承認し、指定シードペアを選出する。	○当年度ハイスクールジャパンカップ南北予選会（シングルス）　各優勝者 ○高校部強化委員推薦　４名以内 ○前年度北海道高校新人戦（シングルス）　ベスト４
※少年男女の監督が予選会の前に確定している場合には、男女ダブルス１ペア、シングルス１名に限り、監督推薦として最終リーグ（特別シード）から出場させることができる。この場合も強化委員会の承認を必要とする。	

注②：成年男女における「指定シードペア・選手（最終予選）」

ダブルス（同一ペアに限る）	シングルス
○当年度北海道春季選手権（一般）　優　勝ペア ○前年度北海道選手権（一般）　上位２ペア ○前年度東・西日本選手権（一般）　上位16ペア ○前年度全日本学生選手権　上位８ペア ○前年度全日本社会人選手権（一般）　上位16ペア ○前年度全日本選手権（一般）　上位32ペア	○当年度北海道シングルス選手権　上位２名 ○当年度全日本シングルス選手権　上位16名 ○前年度全日本学生シングルス選手権　上位８名

注③：補欠選手の選考基準

少年男女	成年男女
ダブルス及びシングルス予選会における次点選手から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。	ダブルス及びシングルス予選会における次点選手及び当年度の全日本シングルス選手権、北海道春季選手権、北海道選手権、東日本選手権、全日本学生選手権で上位入賞した選手の中から監督・コーチの意向を踏まえ、選考する。

■改正内容

○平成12年1月22日理事会：補欠制について

補欠選手を認めず、選手変更を要する非常事態の場合出発前は国体代表選考委員会で、出発後は選手団の総監督に委ねることとした。

○平成14年5月25日理事会：国体代表選考委員会について

委員については、会長、副会長、理事長、副理事長とし、審議の際は、会長（代理含む）、副会長（2名以上）、理事長、副理事長（強化委員長を含む2名以上）の出席を要することとした。

○平成18年6月10日理事会：国体代表内定組の取り扱いについて

国体代表内定基準を作り、その対象組が複数生じた場合の取り扱いを明記した。

○平成26年3月1日理事会：監督・コーチの決定について

国体の監督・コーチは、強化委員会が推薦し、国体代表選考委員会の了承を経て、理事会で審議・決定することとした。

○平成27年3月7日理事会：補欠選手の選考及びシングルスの導入に伴う変更

シングルスの導入に伴い代表選手が５名（ダブルス４名、シングルス１名）になることから怪我による選手変更や練習パートナーなどの問題に対応出来るように補欠選手を１名置くことにしたほか、シングルスの選考に関わる事項を明記した。

わる事項を明記した。